

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成26年8月

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会

目

次

1	評価対象法人の概要	1
2	評価の実施根拠法	1
3	評価の対象	1
4	評価の趣旨及び評価者	2
5	評価方法の概要	2
	（1）評価基準	2
	（2）評価の手法	2
6	評価結果	3
	（1）総合的な評定	3
	（2）年度計画の各項目ごとの評定	4
	1. 診療計画及び診療に関する重点事項	4
	2. 人員配置の弾力的運用	5
	3. 施設整備及び医療機器等の整備計画	5
	4. 患者数の見込みと収支計画	6
	5. その他業務運営に関する事項	7
	（3）地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等	7
	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成25年度業務実績に関する評価基準	8
	参考資料 平成25年度実績に関する評価（項目別評価シート）	9

1 評価対象法人の概要

- (1) 法人名等 名 称 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
 代 表 理事長 栗谷 義樹
 住 所 山形県酒田市あきほ町30番地
- (2) 設立年月日 平成20年4月1日
- (3) 設立団体 山形県及び酒田市
- (4) 資本金の額 11,303,899,678円（平成25年9月13日変更登記時）
- (5) 中期目標の期間 平成24年度から平成27年度（4年間）
- (6) 目的及び業務

ア 目的

地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

イ 業務

- ① 医療の提供に関すること。
- ② 医療に関する調査及び研究に関すること。
- ③ 医療に関する技術者の研修に関すること。
- ④ 医療に関する地域への支援に関すること。
- ⑤ 災害時における医療救護に関すること。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条

3 評価の対象

平成25年度における地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の年度計画に対する実績の状況

※年度計画・・・中期計画に基づき、当該年度における業務運営に関する計画を定めたもの

4 評価の趣旨及び評価者

(1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構（以下「病院機構」という。）が、庄内地域における中核病院である日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センターの運営を行うにあたり、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の効率化等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が業務の実績評価を行う。

(2) 評価委員会

委員名	氏名	役職等
委員長	嘉山 孝正	山形大学学長特別補佐・重粒子線がん治療施設設置準備室長
副委員長	大内 憲明	東北大学医学部長
委員	堀 千秋	酒田市地域包括支援センターほくぶセンター長
委員	佐藤 正一	日本公認会計士協会山形県会
委員	本間 清和	山形県医師会（前酒田地区医師会長）

（委員名順：順不同）

5 評価方法の概要

(1) 評価基準

病院機構平成25年度業務実績に関する評価基準。（別紙のとおり）

(2) 評価の手法

病院機構の自己評価結果を含めて聴取し、これをもとに評価する。

6 評価結果

(1) 総合的な評定

評価委員会は、病院機構より提出された、平成25年度計画に係る事業報告書及び評価基準により自己評定した結果について、適正な評価であると認め、総合的には「非常に優れている」ものとして評価する。

平成25年度は、病院機構設立後6年度目、第2期中期目標期間の2年目となる。

日本海総合病院については、救命救急センターや地域医療支援病院など指定を受ける地域の中核病院として、専門医の配置と、PET-CTやハイブリッド手術室などの最新機器の導入により、救急医療、がん医療等の機能を十分に発揮した安全で高度かつ専門的な急性期医療が提供されている。酒田医療センターについては、回復期リハビリテーションが充実され、地域ニーズに応じた療養、回復期医療の提供がなされている。

病院機構が統合再編・法人化により進めてきた、日本海総合病院における急性期、酒田医療センターにおける回復・療養期といった機能分担が一層進められ、ITネットワークの活用などによる地域の医療機関をはじめ保健・福祉・介護の各機関との連携が強化されたことにより、優秀な医療実績と効果的な業務運営が行われている。

職員配置、就労環境の整備については、医師の短時間正職員制度の導入、レジデントハウスの建設整備、医療クラークや看護補助者等の配置増、認定看護師等の適所配置、電子カルテシステムの更新、院内保育所の24時間保育、病児・病後児保育の継続など、優れたスタッフの確保と業務負担軽減に積極的に取り組んでいる。特に、医療人材の確保・育成について、臨床研修医、レジデント及びスチューデントドクターを受け入れ、医師育成及び医学生の教育に努めている。

財務内容については、日本海総合病院では、延入院患者数の減少が見られるものの、地域医療支援病院入院診療加算をはじめ各種の診療加算等の算定による入院診療単価の増、抗がん剤治療の増加による外来診療単価の増などにより、大きく黒字決算となっている。また、酒田医療センターでは、リハビリテーション科の体制強化による営業収益が改善されている。病院機構全体として、設立初年度より6年間連続して黒字決算を計上し、中期計画の目標である経常収支比率100%以上が引き続き達成され、効率的な運営が行われている。

以上、平成25年度計画における業務の実績は、引き続き良好であり、病院機構の業務運営に対する努力について、評価委員会としては非常に高く評価するものである。

(2) 年度計画の各項目ごとの評定

1. 診療計画及び診療に関する重点事項

ア 評定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理由

日本海総合病院と酒田医療センター、2病院の医療機能の分担により、将来にわたり持続可能な経営に向けて、効率的で効果的な業務運営が行われている。業務実績についてもきわめて良好であり、地域の中核病院として地域医療水準の向上が図られている。

ウ 評価した項目

① 項目数

61項目 【評価 S：9、A：51、B：1】

② 特筆すべき項目

- ・ 年間手術件数、紹介率、逆紹介率が非常に高く、地域医療支援病院として、他の地域医療機関との役割分担及び連携強化が図られ、急性期医療を担う中核病院として役割を果たしている。
- ・ 酒田地区医師会と協力連携し、平日夜間救急外来の診療体制の充実が図られている。
- ・ 地域がん診療連携拠点病院として緩和ケア、がん相談支援体制が充実され、PET-CTの検査件数が増加するなど、がん治療の強化が図られている。今後、サイコオンコロジーの医師の活用や患者満足度の評価の視点を取り入れることも検討されたい。
- ・ 酒田医療センターの回復期リハビリテーションにおいて、通所リハビリテーションが開始され機能強化が図られている。
- ・ 高度専門医療、先進医療についても、ハイブリッド手術室などの医療機器を積極的に導入し、医療の質の向上が図られている。
- ・ 山形大学医学部や東北大学医学部と協力連携し、臨床研修医、レジデント、スチューデントドクター等を受け入れ、医学生教育、医師育成のほか、医療従事者の育成に継続して取り組んでいる。今後、スチューデントドクターの受入れ増についても検討されたい。
- ・ 認定看護師等の資格取得により、専門知識の習得と技能向上が図られ、より質の高い看護が提供されている。
- ・ 地域医療情報ネットワーク「ちようかいネット」などのITネットワークの活用の拡大により、医療ネットワーク化が進み、地域連携の強化が図られている。

- ・ 情報セキュリティー向上は重要であることを認識し、職員等への医療情報や個人情報の取扱いについて研修と指導に努められたい。
- ・ 新たな2つの地域連携クリティカルパスと院内クリティカルパスが稼働し、効率的な医療の提供がなされている。
- ・ 酒田市立看護専門学校の実習施設として役割を担い、実習指導を務めるなど、地域の医療水準の向上へ貢献している。
- ・ 病院間移動バス「げんき号」について、効率的な運用のほか、患者の利便性を考慮した運用を検討されたい。

2. 人員配置の弾力的運用

ア 評 定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理 由

医師の確保と定着化のため、医師短時間正職員制度を導入、実施しているほか、医師、看護師の負担軽減のため、医療クラーク、看護補助者、事務補助者を増員し、人員配置の弾力的な運用が図られている。

ウ 評価した項目

① 項目数

5項目 【評価 S：2、A：2、B：1】

② 特筆すべき項目

- ・ 医師短時間正職員制度の導入、医療クラーク、看護補助者及び事務補助者の増員が図られている。
- ・ 病院といった特殊性、求人と雇用のバランスもあるが、障害者雇用促進法に基づく障害者の法定雇用率の達成に努められたい。
- ・ 「スタッフ職員制度」（臨時職員登用制度）を創設し、雇用の安定と人材確保に努めている。

3. 施設整備及び医療機器等の整備計画

ア 評 定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理由

酒田医療センターの増築・改修工事は、平成25年4月にエントランス棟の完成により完了した。また、ハイブリッド手術室、電子カルテシステム、レジデントハウス（研修医師用宿舎）の建設など、高度医療機器の計画的な更新・整備が継続的に行われている。

ウ 評価した項目

① 項目数

3項目 【評価 A：3】

② 特筆すべき項目

- ・ レジデントハウス（鉄筋コンクリート造、3階建て、30戸）を建設。平成26年3月現在、11名の研修医が入居。
- ・ ハイブリッド手術室を整備し、平成25年8月稼働。また、電子カルテシステムを更新し、平成25年9月、日本海総合病院稼働、平成26年3月、酒田医療センター稼働。

4. 患者数の見込みと収支計画

ア 評定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理由

病院機構全体では、延入院患者数が減少しているものの、延外来患者数は増加している。収支については、平均在院日数の短縮が図られたことや、地域医療支援病院入院診療加算をはじめ各種の診療加算等の算定、入院、外来診療単価の増などにより、平成24年度に引き続き黒字決算となり、病院機構設立以来6期連続して純利益を計上している。営業利益においても、前年度以上の黒字であり、また、経常収支比率100%以上を達成するなど、財務内容についてもきわめて良好である。

ウ 評価した項目

① 項目数

1項目 【評価 S：1】

② 特筆すべき項目

- ・ 単年度収支において黒字を計上、営業利益でも引き続き黒字を計上している。
- ・ 経常収支比率104.8%を達成している。（昨年度、経常収支比率104.7%）

- ・ 人件費・材料費・経費の営業収益比率とも全国の500床以上の自治体黒字病院の平均値以下を達成している。
- ・ 酒田市以外の市町村からの患者の増、庄内地域における将来の人口減を考慮した、将来のビジョンを検討していく必要がある。

5. その他業務運営に関する事項

ア 評 定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理 由

院内保育所などの就労環境の整備、人間ドッグ機能の見直し、酒田市飛島診療所への支援、看護師等修学資金貸与制度の創設などが行われている。

ウ 評価した項目

① 項目数

10項目【評価 S：3、A：6、B：1】

② 特筆すべき項目

- ・ 院内保育所の運営について24時間保育、病児・病後児保育を実施しているが、さらに職員が安心して働けるよう、今後、年末年始の保育についても検討されたい。
- ・ 常勤医師が不在の酒田市飛島診療所へ、医師が確保されるまでの間、日本海総合病院が、医師を週1回派遣した。また、救急患者対応として、ドクターヘリでの受入れ等を支援している。
- ・ 看護師又は助産師を目指す学生の経済的支援のための「看護師等修学資金貸与制度」を設け、地域医療に貢献する人材の育成に努めている。

(3) 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等

な し

【別紙】

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成25年度業務実績に関する評価基準

1 平成25年度業務の実績に関する評価の基本方針

平成25年度地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構年度計画について、その実施状況を調査・分析し、業務の実績について評価を行なう。

2 業務の実績に関する評価の方法

計画に掲げた項目ごとに行なう「項目別評価」と「業務実績全体の状況について行なう全体評価」の2つを併せて行なうものとする。

(1) 項目別評価 項目別評価シート

項目別評価は、年度計画の個別項目毎の進捗状況について、下記により評価するものとする。

① 業務の実施状況を幅広く把握し、可能な限り客観的な評価の実施に努める。

- ・目標数値がある場合はその達成度合い、定性的な目標の場合は具体的な業務実績を把握し評価する
- ・業務実績については、その数量だけでなく、その質についても考慮する
- ・業務実績に影響を及ぼした要因、予期せぬ事情の変化等についても考慮する

② 判定基準として以下の5段階で評価し、原則としてその理由を付記する

(判定基準)

「S」 : 計画を大幅に上回っている

「A」 : 計画を上回っている

「B」 : 計画に概ね合致している

「C」 : 計画をやや下回っている

「D」 : 計画を下回っており、大幅な改善が必要

(2) 全体評価

全体評価は、(1)の項目別評価の結果を踏まえ、全体的な計画の進行状況や達成について、記述式等により評価するものとする。

平成 25 年度実績に関する評価

(項目別評価シート)